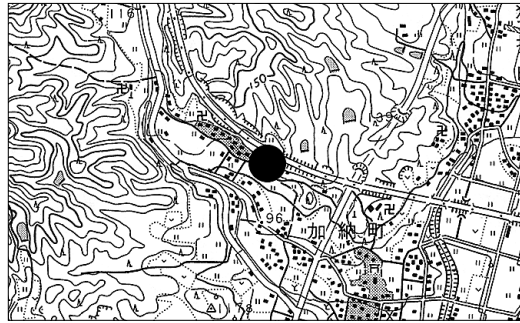


よりのもと
寄元古墳群

所在地 豊田市加納町字寄元地内
調査理由 猿投グリーンロード建設
調査期間 平成11年4月～6月
調査面積 150 m²
担当者 佐藤公保・花井 伸・鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「豊田北部」）

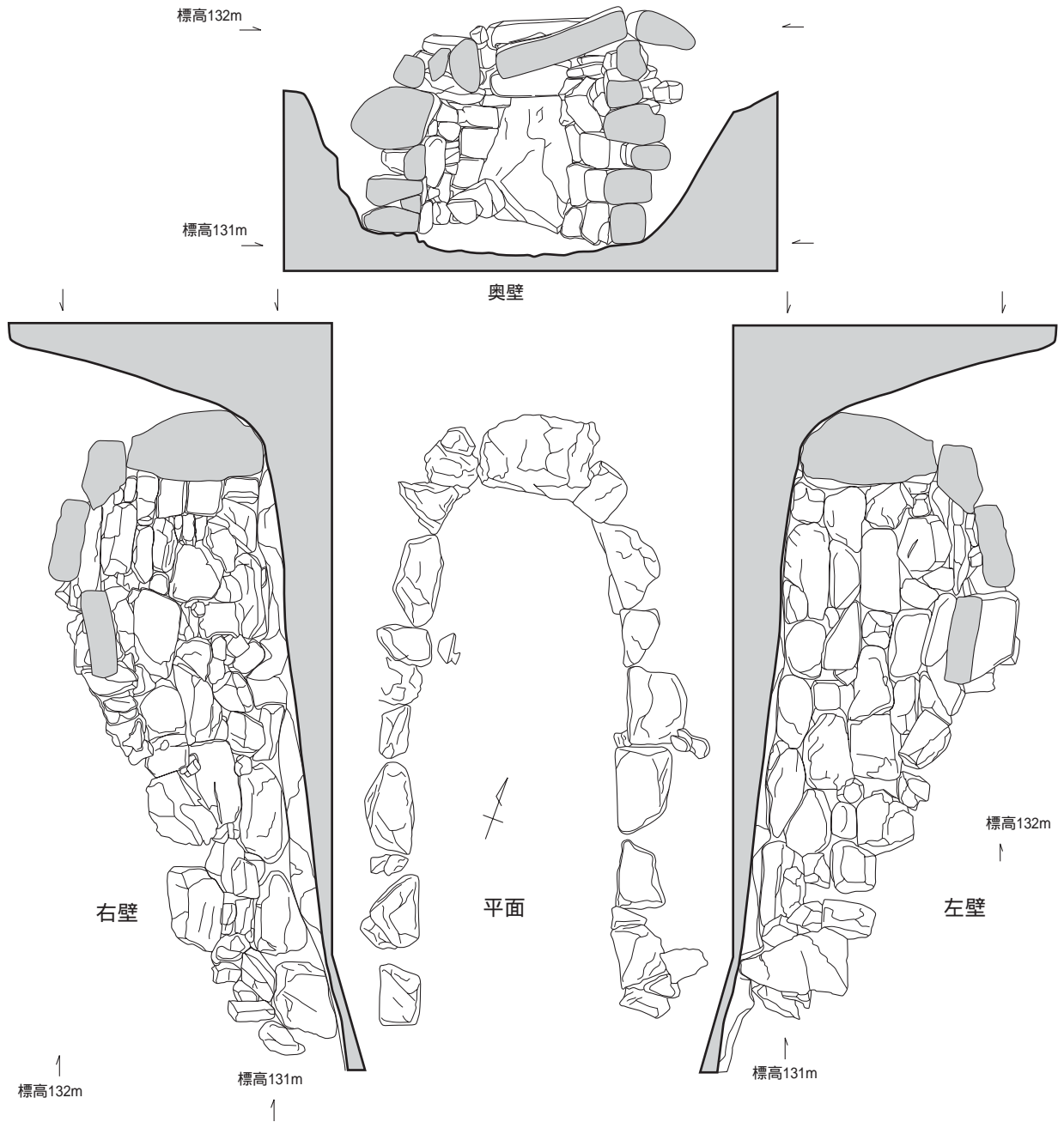
調査の経過 調査は猿投グリーンロード拡幅に伴う事前調査として、愛知県道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成11年4月から平成11年6月までで、面積は150 m²である。調査は道路建設予定地内に分布する古墳の範囲を確認するため、2地区で地形測量調査と試掘調査を行った。

この結果、A地区では石室を持つ古墳1基（寄元3号墳）を確認した。B地区では、既に滅失したとされる寄元古墳（愛知県遺跡番号63048）を確認することはできなかったが、小石室を持つ古墳S Z 01（寄元4号墳）を確認した。このS Z 01に関しては引き続いて本調査を行った。

立地と環境 猿投山から南西方向に舌状に伸びる尾根上に立地する。付近には池田古墳群や藤山古墳群などの古墳群が点在し、調査地点に隣接する形で寄元2号墳が所在する。

調査の概要 寄元3号墳 地形測量の結果、南方向に伸びる尾根上（鞍部中央）に直径約15 m、高さ2 m以上を測る円形の高まりとその南東部に低い張り出し状の高まりが確認された。円形の高まりに存在する盗掘坑を調査した結果、石室の両側壁と思われる石列や折損して崩落した天井石が確認された。これらの状況から、この部分は幅約90 cmの横穴式石室の羨道部と推定される。石室前庭部付近には閉塞石または石室側壁の石材が標高約118 mの高さまで散乱していた。墳丘裾部に2ヶ所設定された試掘坑では、地山の花崗岩上に黄褐色細粒砂の盛土が堆積していることが確認されたが、埴輪や葺石、外護列石などは確認されなかった。以上の結果から、横穴式石室を有する円墳、あるいは張り出し状の高まりを評価すれば帆立貝形の前方後円墳が存在する可能性が考えられる。

寄元4号墳 地形測量の結果、南西方向に舌状に伸びる尾根上（鞍部中央）の南斜面にわずかな盛り上がり確認された。土層の断面観察の結果、調査区南部にあるわずかな盛り上がり部が、黄褐色粗粒砂質土による人為的な盛土であることが判明した。この盛土を除去すると、地山を最大で深さ1.0 m掘り込んだ墓坑内に、全長約2.4 m、最大幅約1.0 mの大きさを持つ小石室（横穴式石室）が確認された。この石室は寄元1号墳（旧寄元古墳）とは異なるものであると考えられ、寄元4号墳に伴うものであると思われる。石室内からは8世紀初頭に位置付けられる須恵器平瓶1点のみが出土した。（鈴木正貴）



寄元4号墳石室実測図(1:30)